

平成 26 年度教育研究活動報告書

氏名	市川 彰	所属	芸術文化学部美術学科
学位	修士	職位	准教授
専門分野	日本美術史、博物館学		
Ⅰ 教育活動			
本年度担当科目			
学部	日本美術史 博物館資料論 博物館資料保存論 博物館展示論 博物館経営論 博物館実習Ⅰ 博物館実習		
大学院	美術史特講（日本）		
Ⅱ 研究活動			
これまでの主な研究業績（5 件まで）			
（1）〈論文〉若冲画に示されたもの-「動植綵絵」以前の三件の鶴を主題とする着色表現をめぐって-、『研究紀要』第 20 号、京都大学文学部美学美術史学研究室、1999			
（2）〈論文〉若冲画に示されたもの 2 -《初期作品》「雪梅雄鶏図」をめぐって-、京都文化博物館紀要『朱雀』第 19 集、2007			
（3）〈論文〉若冲の《最初期の着色画》、「雪中雄鶏図」をめぐって、「美術に関する調査研究の助成」研究報告、鹿島美術財団、2002			
（4）〈その他〉『都林泉名勝図会』に記された「名宝」、京都文化博物館紀要『朱雀』第 20 集、2008			
（5）〈その他〉狩野永敬筆「十二ヶ月歌意図屏風」について～平成 21 年度修繕報告を兼ねて～、京都文化博物館紀要『朱雀』第 23 集、2011			
本年度を含む過去 3 年間の研究業績			
（1）〈その他〉名所図会に記された京都の「名宝」（一）-『都名所図会』巻之一-、尾道市立大学芸術文化学部紀要第 13 号、2014			
（2）〈その他〉名所図会に記された京都の「名宝」（二）-『都名所図会』巻之二～巻之三-、尾道市立大学芸術文化学部紀要第 14 号、2015（予定）			
現在の研究テーマ（3 つまで）			
（1）18 世紀京都画壇の研究			
（2）名所図会に記された京都の名宝に関する研究			
研究テーマの進捗状況	（1）に関しては、様式論の立場から改めて作品研究を行い、その成果の一部を美術史特講（日本）等で紹介した。 （2）については資料収集と併行して、読解に着手し、その成果の一部を紀要に掲載予定である。また、現存作例との照合の作業も鋭意、進めている所である。		
学会、所属団体における活動（本年度を含む過去 3 年間の研究業績）			
所属学会・所属団体 役職等			